

繁殖母牛を更新するには？～母牛更新の考え方～

2011.9.11-12 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

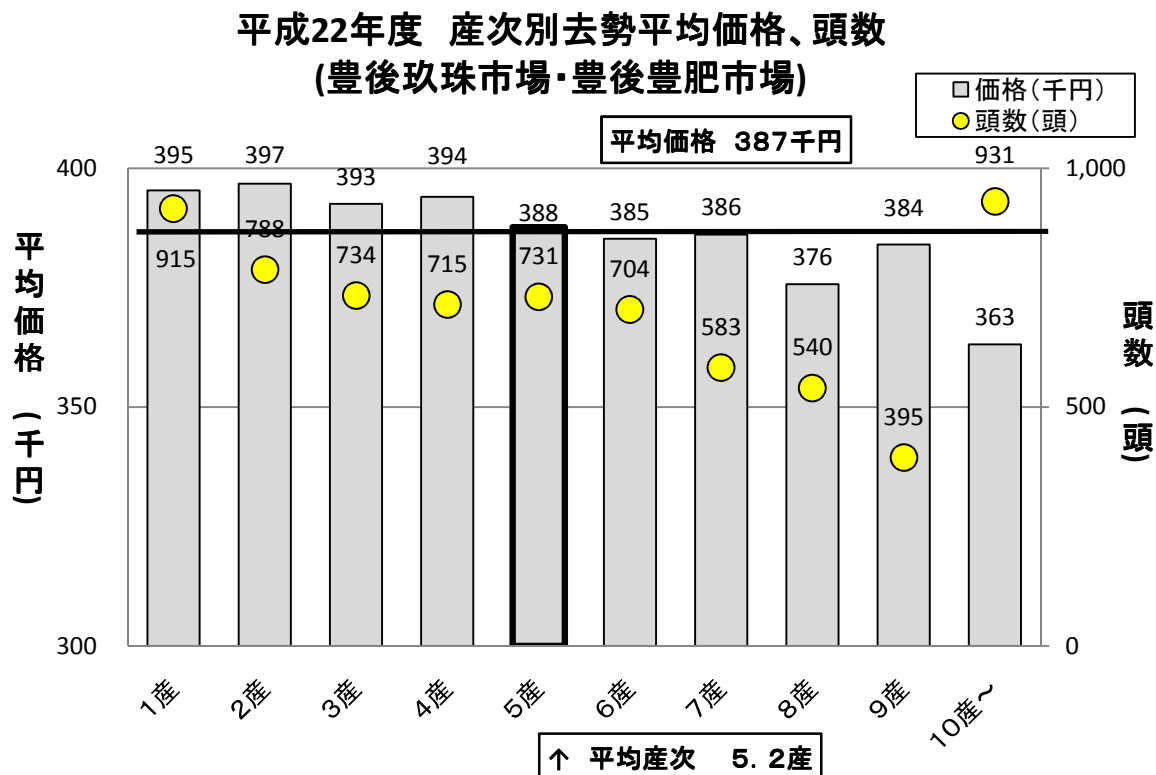
肉用牛繁殖経営において、母牛の更新は重要な要素です。ただ母牛の更新はやみくもに行えばいいという訳ではありません。ここでは昨年度、豊肥、玖珠市場で取引された子牛(去勢)価格から母牛更新の重要性について説明します。

平成22年度子牛(去勢)価格

下記のグラフは平成22年度に豊肥、玖珠市場で取引された子牛(去勢)7,259頭の産次別平均価格を表しています。

平均価格は387千円、母牛の平均産次は5.2産ですが、10産以上が931頭(約13%)となっています。

産次が増えるに従って、平均価格が下がる傾向にあります。母牛の年齢が高くなると、泌乳量が低下したり、分娩間隔が長くなる傾向があるといったデータもあることから、10産以降は子牛の市場性にばらつきが出ることが懸念されます。



母牛更新の考え方

一般的に産次が増えると子牛価格は低くなる傾向にあります。しかし、繁殖雌牛は経済動物です。

確実に1年1産し、正常な発育の子牛を出荷する母牛からは収益はあります。血統的な要素が良くても分娩間隔が長かったり、子牛の発育が不良であった場合は収益がありません。

高齢母牛の弱点？

泌乳量の低下

→早期離乳や子牛の管理次第で克服できる！

分娩間隔が長くなる

→発情を見逃さない！※治療しても受胎しなければ更新対象。

改良の遅れ

→子牛の管理を徹底し、発育を良くすれば若干解消可能！

こうした管理を行えば、高齢母牛でも収益があがる母牛はいます。

育種価を活用した自家保留

育種価とは、個体(牛)が生まれつき親から授かった遺伝的能力です。この育種価により、繁殖雌牛の能力から子牛の能力(枝肉重量、BMS No.など)を推定します。

畜産研究部では種雄牛造成の素材牛選定基準として用いています。

子牛の肥育成績が出ている繁殖雌牛なら、どの牛でもこの育種価が分かっているので、育種価を把握することにより、血統などと併せて自家保留をするうえでの目安となります。

※育種価は各振興局、家畜保健衛生所で照会できます。

産歴や生産した子牛の市場価格だけを基準に更新を判断するのではなく、母牛としての経済効果(この母牛は儲けさせてくれるのか、エサをただ喰いしているのか)を十分検討して更新牛を決めることをお勧めします。

※ご不明な点は、最寄りの振興局にお尋ね下さい。